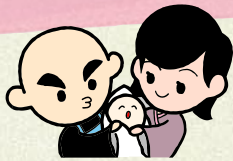


お寺暮らしの ライフデザイン ②



CASE #2 島根県益田市・妙義寺様
住職 永見勝徳師
副住職 永見宏樹師(全曹青法式委員)

●**勝徳** 先代が幼稚園を始めたのは昭和5年で、今年で設立80年になります。最初は無料託児所として始まり、托鉢した浄財でお子さんを預かっていました。それが幼稚園になり、今から26年前に学校法人になりました。現代では共働きが多いので、保育園の指向が強くなっています。でも何で保育園(厚労省所管の児童福祉施設)じゃなく幼稚園(文科省所管の教育機関)をやっているのかというと、建学の精神である、お寺や仏さまと小さいときから縁を結んで、感謝したり手を合わす、親子共々そういう心が育って欲しい。この精神がなければお寺に関わる意味がありませんからね。経営的には非常に厳しいです。子どもがどんどん減っていますし、現状では「(経費の)持ち出し」もありますね。

■**深町** お寺と幼稚園との兼務でご苦労されたことはありますか？

●**勝徳** 案外私は…、その時は大変だと思ってしまうでしょうけれど、すぐに忘れると言うか(笑)。結構、楽しいですね。幼稚園が無くなったなら子どもの声が聞こえなくなる。子どもの声がするお寺って、すごく生き活きとしているんですよ。でも、それが無くなったなら寂しい。

■**深町** 将来は両法人の活動を、ご子弟である宏樹さんが継承されていくと思いますが、やはり以前から後継者として期待をされていたのでしょうか？

●**勝徳** 私もそうですが、檀家さんが強く望んでいましたね。ある時、永平寺で修行中だった宏樹に問いかけたんですよ。「帰って継ぐ気はあるか？」と。私は勝手に「3年いれば十分だろう」と思っていました。それが5年になり7年になり(笑)。彼も修行中に色んなことが見えてきたようなので、「もし、僧侶として別の道を選ぶのであれば、弟(次男)に継がしては

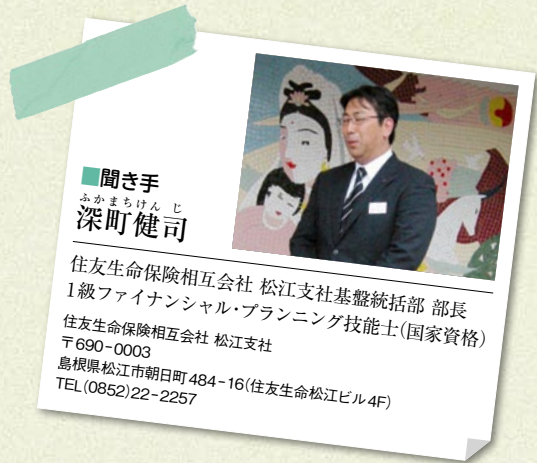


どうか」と。私自身は住職にしか出来ないからと、この道を選んだつもりはありません。もし住職にならなくても、これで生きようという目標が他にもあったんですよ。でも敢えて選んで「ならせてもらった」んですね。それがあったので、彼に問いかけたんです。すると本人が「いずれは帰らせてもらう」と言いました。

●**宏樹** これまで、言葉として「幼稚園とお寺をやりなさい」と言われたことは一度もないです。ただ、日頃の住職の姿を見て、「それを願っているな」とは感じていました。永平寺の環境は、一日の流れが決まったリズムの中で生活が出来る、それが心地よかったです。毎日を仲間とともに、坐禅が出来て、応量器で作法通りの食事が出来て、作務が出来て、勉強まで出来る。「なんて素晴らしい環境なんだ」とだんだんと導かれたように思います。片や、師寮寺に戻ってくると、檀家さんや園児を始め、色んな人と関わらなければいけない。そこにまだ馴染めないというか、未だに僧堂生活の心地よさから抜け切れていません。僧侶の立場とは別に、命を預かり、学校法人の経営者・教育者として、きちんと保護者の方から保育料も頂く。自分にそれをやれるのかという不安はありますね。でも、敢えてここでの生活を選んだのは、「ここで生まれ、育てて頂いたから」の一点ですね。お寺と幼稚園は相互に良い関係にあると信じているので、「出来る限り続けていかなければならない」という義務感が強いんです。永平寺に、幼稚園の園長でありながら役寮をお務めの方がおられて、以前聞いたことがあるんですね。「園長と住職をやりながら、どうして永平寺に来られるゆとりがあるんですか？」って。すると「今は妻や後継者が手伝ってくれているが、自分も一時期幼稚園に深く関わって、一日中子どものことを考えていた時期があった。それを経てこそ、両立できるんだよ。」と言われました。私にとって、今ここで、僧侶として子どもたちと関わる生活も、精進そのものだと思っています。

■**深町** 通常、一般のオーナー企業さまの相続で後継者の方に渡す場合には、生命保険に会社としてご加入されておられますが。

●**勝徳** そうですね。私も若い頃から、宗教法人と個人の生命保険、両方を掛けてきました。宗教法人で掛けたものは、葬儀費用や寺を出ていく家族への見舞金としての財源の一部と考えてきました。今日はこういう場を頂いて、互いの気持ちを初めて言葉にすることが多く、有り難く思います(笑)。



聞き手
ふかまちけんじ
深町健司

住友生命保険相互会社 松江支社基盤統括部 部長
1級ファイナンシャル・プランニング技能士(国家資格)
住友生命保険相互会社 松江支社
〒690-0003
島根県松江市朝日町484-16(住友生命松江ビル4F)
TEL(0852)22-2257